



# ひまわり



二十歳になりました!

## 茨城県立医療大学付属病院 開院20年を迎えて

茨城県立医療大学付属病院は、平成28年に開院20年という節目の年を迎えました。平成28年12月18日には開院20周年記念事業を開催し、20年という歴史を振り返るとともに、21年目への新たなスタートを切りました。

### 開院20周年を迎えての思い ～「チーム医療」の大切さ～

看護部長 旭 佐記子

平成28年12月に付属病院は開院20周年を迎えました。歴史を振り返ると多くのことが思い出されます。私は付属病院開院準備室時代から病院づくりに係る機会をいただきました。病院づくりでは院内の設備、備品の選定や入院環境づくり、看護マニュアル作成、看護職員教育体制整備、リハビリテーションを受ける対象者理解の学習会等々、準備は本当に大変でした。しかし、同時に新しい病院づくりは貴重な体験で、わくわくする思いの毎日でした。付属病院の看護体制は看護学科教員と話し合いを重ね、「教育と臨床の協働」「ユニフィケーション」の考えを取り入れました。開院当初は看護学科教員が看護部長と看護師長、副看護師長を務める組織体制でスタートしました。現在、看護管理者のほとんどは臨床側が務めていますが大学教員による協働・支援体制が残っていることは大変心強くありがたいことと思っています。



開院時の看護師 庭園にて

近年の医療体制では多職種連携やチーム医療という言葉をよく聞きますが、当院は開院当初からチーム医療を実践していました。脊髄損傷の患児とのかかわりでは医師、看護師、療法士、MSWがチームを組んで学校訪問に行き、学校側と話し合っただけで患児が学校生活を継続できる環境の調整を支援しました。学校で一般の生徒が楽しむ運動会や、スキー教室への参加も医療者のアドバイスや支援によって実現しました。障害を持ちながらも生活の再構築に向けて一歩踏み出すためには「チーム医療」による支援は重要だと思っています。リハビリテーション医療では地域社会で生活する患者さんの気持ちに寄り添いかかわることが大切だと20年経た今も思っています。

付属病院職員は充実した教育を受けられる環境があります。今後も各専門職が知識や技術を共有し、多職種が連携して、患者さんが住み慣れた地域でその人らしく生活できるように支援を続けていきたいと考えています。

付属病院を支えてくださった皆様に心からお礼申し上げますとともに、今後ともご指導、ご支援賜りますようお願い申し上げます。



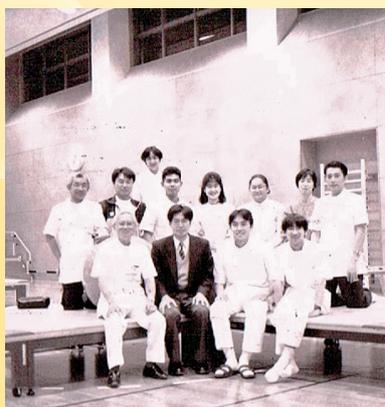
チェアスキー

## 充実したリハビリテーション医療を提供します

リハビリテーション部長 富田 和秀

リハビリテーション部は大学付属病院という特色を生かし、専門的なリハビリテーション医療に取り組んで参りました。ただし、リハビリテーション部のスタッフ数は開院当初は10名前後からスタートし、つい数年前まで30名足らずと、他院と比較して決して大所帯とは言えない状況でありました。

平成26年度より365日リハビリテーション推進事業のもと、スタッフ数が増員され、近々60名近くの部門に成長します。これによりリハビリテーションの実施時間を充実させます。さらに、リハビリテーションの治療効果が期待できる先進的なリハビリテーションにも取り組んでいきます。今後も皆様のご希望に添えるように、さらに充実したリハビリテーション医療を提供できるよう邁進いたします。



開院当初のリハビリテーション部



現在のリハビリテーション部

## 改めて皆様に感謝

開院20周年記念事業実行委員長 大瀬 寛高

お陰様で、開院20周年記念事業を滞りなく執り行うことができました。「コンパクトに」というコンセプトで始まりましたが、お世話になっている方々を思い描くうちに、最終的にはたくさんの方に参加をお願いし、盛大で充実した式典・事業となりました。実行委員の企画力・実行力は素晴らしく、DVD作成、ここにこ保育園の壁画作成、Wマコトの講演会、感謝の集いなど、記憶にも記録にも残るものとなりました。また、20年間、いかに多くの方々に支えていただいていたのかを再認する機会ともなりました。職員の皆様、実行委員の皆様、当日、ご参加くださいました皆様、また、参加が叶わなかった皆様にも、心より感謝申し上げます。



茨城県立医療大学付属病院

Ibaraki Prefectural University of Health Sciences Hospital

〒300-0331 茨城県稲敷郡阿見町阿見4733

TEL.029-888-9200(代) ホームページ <http://www.hosp.ipu.ac.jp/>